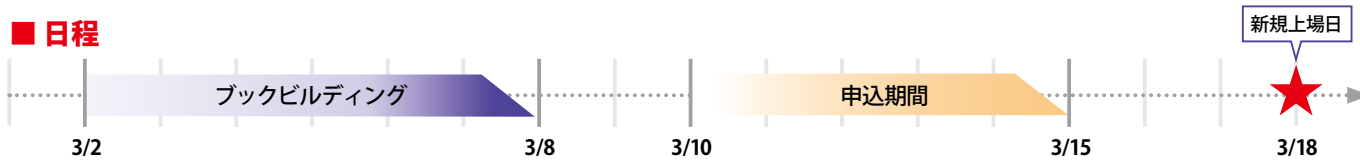


## IPO銘柄 グローバルグループ (6189・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6189	100株	公募: 125.00万株 売出: 57.63万株 (OA25.00万株)	1,900円~2,000円 (11.0倍)	いちよし証券



### 首都圏を中心に保育施設・学童クラブを運営

#### ■ 事業内容

首都圏を中心に保育所などを運営。児童福祉法に基づき国が定めた設置基準を満たす認可保育所がメインで、自治体を中心とした保育所不足の解消を目的に自治体が独自に定める制度に基づいて設置される独立認定保育所、就学前の子どもに幼児教育、保育を提供する認定こども園、小学校に就学している10歳未満の児童を授業の終了後に預かる学童クラブなどを展開。待機児童問題が深刻化する中、保育施設74施設、学童クラブ、児童館10施設を運営している。子育て支援事業の単業態。

#### ■ 特徴

傘下に保育所運営を手掛ける子会社グローバルキッズ、ろくを保有。従来はグローバルキッズが親会社で、ろくが子会社だったが、15年10月に株式移転方式で完全親会社としてグローバルグループが設立された。15年4月には「子ども・子育て支援新制度」が施行されるなど、待機児童解消に向けた政府施策がビジネスの追い風となっている。

### アナリストコメント

#### ■ 定量分析

16年9月期の連結売上高は前期比54.1%増の17億3,900万円を計画する。前期に東京、神奈川、千葉、大阪で保育所16施設、学童クラブ3施設を新規開設。施設数増加によるボリュームアップ効果を楽しんでいる。需要は引き続き高水準で、政策に後押しされた成長が期待される。

#### ■ 定性分析

「子ども・子育て支援新制度」の施行に続き、16年度予算案でも「1億総活躍社会」が目玉政策に掲げられるなど、待機児童解消に向けた政策が事業の追い風となる。ただ、社会的なテーマ性はあるものの、既上場銘柄はそこまで高い評価を得ているわけではない。

#### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約41億円。資金需要のある業態ではあるが、新興市場上場銘柄としては荷もたれ感が強く意識される規模となっている。ベンチャーキャピタル保有株も存在しており、需給面には大きな懸念を抱えて上場することになる。(小泉健太)

#### ■ 類似企業

グローバルグループ(6189・マザーズ)	予想PER11.0倍 (仮条件上限)
JPホールディングス(2749・東証1部)	予想PER17.0倍
サクセスホールディングス(6065・東証1部)	予想PER —

#### ■ 引受証券

いちよし証券、SMBC日興証券、野村証券、みずほ証券、SMBCフレンド証券、エース証券、岡三証券、極東証券、東洋証券、マネックス証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年9月期(実績)	4,678	—	336	—	25	—	86.5	—
15年9月期(実績)	6,917	47.9	1,128	235.7	535	2,040.0	1,771.1	—
16年9月期(会社予想)	9,325	34.8	1,739	54.1	1,368	2.6倍	181.3	—

※ 14年9月期、15年9月期はグローバルキッズの参考数値  
 ※ 14年9月期より連結決算。15年3月に株式分割(1株→100株)を実施。14年9月期、15年9月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年9月期	3,000	4,987	190	30	631.8	3.8	14.7
15年9月期	341,000	7,500	1,423	378	4,171.4	19.0	66.5

※ 14年9月期、15年9月期はグローバルキッズの参考数値  
 ※ 14年9月期および15年9月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	なかや	4,000,000	48.97
2	中正 雄一	1,780,240	21.79
3	日本生命保険	460,000	5.63
4	田浦 秀一	300,000	3.67
4	宇田川 三郎	300,000	3.67
6	生川 雅也	160,000	1.96
7	東京建物	100,000	1.22
7	みずほ成長支援投資事業有限責任組 合	100,000	1.22
9	グローバルキッズ	96,320	1.18
10	NVCC7号投資事業有限責任組合	80,000	0.98

## 経営陣

役職	氏名
代表取締役	中正 雄一
取締役	竹内 節子
取締役	宇田川 三郎
取締役	田浦 秀一
取締役	石橋 宜忠
取締役	石井 光暢
常勤監査役	橋口 晶子
監査役	竹田 理恵子
監査役	島村 哲広

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering) : 新規株式公開。

※2 ブックビルディング : 引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。